笑顔があふれる楽しい町

報告書

第12回 子どもがつくる町 ミニたまゆり2017

目　次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

ミニたまゆりとは？ミニたまゆりの沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

第１２回ミニたまゆりの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

ミニたまゆりのルール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

ミニたまゆりの通貨「ユリー」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

各グループの紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

公共グループの報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

製作グループの報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

遊びグループの報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

食事グループの報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

イベントグループの報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１

パフォーマンスの報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

模擬裁判・市議会の報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３

川崎市長・麻生区長との対談・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４

協賛企業・団体のブース・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５

子ども会議とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６

第１回子ども会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７

第２回子ども会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８

第３回子ども会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９

第４回子ども会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０

アンケート集計結果（子ども）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１

アンケート集計結果（保護者）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２

第１２回ミニたまゆり運営組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５

協力団体一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６

高校生ミニたまゆりボランティア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７

かながわ子ども合衆国構想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８

日本文化実践講座ミニフエ（ベトナム）・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９

はじめに

2005年に、数人の先生と学生で立ち上げた「子どもが作る町ミニたまゆり」は、12年の歳月を経て、地域と共に開催する川崎市北部に根付いたイベントへと成長しました。今年は、シャープ株式会社や株式会社シグマなどの有名企業を含む 40を超える団体・個人がミニたまゆりの活動に賛同していただき、入場制限を掛けなければならないほど、児童の参加希望者も増えています。また、麻生区区役所の協力で実現した本格的な市長選挙や川崎市市議会の協力で実現した川崎市長への請願書の提出など行政機関との連携事業も増えてきました。ミニたまゆりの活動をきっかけとし、「地域の子どもたちのために、何ができるか？」企業-行政-大学がそれぞれの立場でアイデアを出し合い実現できるようサポートを続けていきたいと考えています。

その具体策の１つとして、ミニたまゆりの活動は、神奈川県大学発政策提案制度に採択され、2017年度より、神奈川県全域に普及させる活動を神奈川県と協力して取り組んでいく事になりました。これからは、地域貢献だけではなく、「学生および児童への教育活動」・「大学としての研究活動」を意識した取り組みとしてミニたまゆりの目的を再定義し、神奈川県のキャリア教育に貢献できるよう学生とともに頑張っていきたいと考えています。

ミニたまゆりの活動は、大学関係者だけではなく、地域の協力者・協力団体など、多くの方々に支えらえています。最後になりましたが、ご尽力をいただいた皆様に心より感謝申し上 げます。

子どもが作る町ミニたまゆり 教職員代表
子ども未来学部 准教授 番匠 一雅

大学１年生の福祉マインド実践講座の授業の中で番匠先生や先輩方による紹介プレゼンテーションを聞いて、ミニたまゆりがどのような行事なのか初めて知りました。私自身あまりイベントに関心がなく、積極的に関わろうとは思いませんでしたが、元々子どもが好きで、子どもと関われる良い機会になると思い、コアスタッフとして参加することにしました。

ミニたまゆりの活動の中で、子どもたちが「町をより良くしていくにはどうしたら良いのか？」真剣に考えている姿を間近で見る機会が何度もありました。徐々に、自分自身も負けてはいられないと言う思いが芽生え、２年次は学生代表として参加することを決意しました。

今年度は新しい校舎の使用や新企画が多く、その上、学生スタッフの人数が約120人にも及び、私には荷が重すぎたと思う部分もありましたが、グループ長を始めとした学生スタッフや多くの先生方、協力団体の皆様、地域の皆様に支えられ大きな事故等なく終えることができました。新校舎での運営に伴う課題等はありますが、今回の経験をしっかり後輩に引き継ぎ、今後は、より良い活動に作り上げることが出来るよう尽力したいと思います。

子どもの作る町ミニたまゆりの関係者の皆様及び参加者の皆様、誠にありがとうございました。

子どもが作る町ミニたまゆり 学生代表
人間福祉学部２年　渡邉紗菜

ミニたまゆりの沿革

第１回　2005年11月
学園祭と同時開催
酒井ゼミの学生と数人の教員で運営
2日間で500人の参加
第２回　2006年8月
４日間で2000人の来場者
消防署・警察署・地域通貨たま・市民プールなどの協力を得る
第３回　2008年3月
３日間で3000人の来場者
川崎市阿部市長が視察に訪れる。以後、毎年ミニたまゆりに参加している
第４回　2009年2月
2日間で2000人の来場者
地域福祉学科１年の必修行事となる
かわさきFMによるラジオPRを開始
第５回　2010年2月
地域交流センターが設立
同センターの担当行事および人間福祉学部１年の必修授業となる
前日に子ども会議を開催
第６回　2011年2月
市議会が開催、市民の声から町の公約が決まる
模擬裁判が開催される
テレビ神奈川で特集番組が放映される
第７回　2012年2月
黒岩神奈川県知事が視察に訪れる
プロ声優・アナウンサーの指導による声優・テレビ局の仕事を開始
大人ユリーの販売
第８回　2013年2月
ANA航空教室・遊びの森など協賛企業のブースを開設
エコ・バザーを開催
Twitterの活用を開始
第９回　2014年2月
病院の仕事体験（新百合丘総合病院）ビューティーサロン、自衛隊の仕事を開始
事前予約制の導入、職業案内所の電子掲示可
ケーブルテレビにて密着取材番組が放送
大雪のため初日の13時で中止
第10回　2015年2月
よみうりランド、こどもの国、社会福祉法人緑成会など協賛企業のブースを開設
目安箱を設置し、投稿内容を市議会にて議論
ベトナムにて第１回ミニフエを開催
第９回大学自慢コンテスト優勝
第11回　2016年2月
子どもレストラン、食品サンプル、J:COM（テレビ局）、福祉センター、ミニたまツアー、フラワーバスケット、カップス（音楽演奏）を新たに開催
神奈川県大学発政策提案制度に採択
第12回　2017年2月
オープニングセレモニー、ロボホンによるルール説明、インターネットを利用した職案システム、警察犬パフォーマンス、動物愛護センターの仕事を新たに開始
川崎市議会と協力し、川崎市長に請願書を提出
新百合ヶ丘駅エルミロードでプレミニたまゆり開催
かながわ子ども合衆国キックオフ会議を開催

ミニたまゆりとは？

「ミニたまゆり」は ドイツのミニ・ミュンヘン子どものまちを参考に、川崎市麻生区にある田園調布学園大学が地域の子どもたちのために開催するイベントです。ミニたまゆりに参加した子どもたちは、自分たちの力で町を運営します。町には、市役所・銀行などの公共施設、様々な製品を製作する工房や食事を提供するお店、ボーリング・射的などのゲームを楽しむための娯楽施設など様々なお店（仕事）が用意されており、子どもたちは自分の好きなお店で仕事に従事します。仕事を体験した子どもたちにはお給料が支払われ、税金を徴収し残ったお金で、買い物・食事・ゲームに参加するといったサービスを受けることが出来ます。子どもたちは、このような町作り体験を通して労働の喜び、お金の大切さなど、社会のしくみを楽しみながら学びます。「たまゆり」の名称は、本学の学生がよく利用する新百合ケ丘駅とたまプラーザ駅の名前から名付けられました。

ミニたまゆりの成り立ち

福祉の専門大学として開学した田園調布学園大学の酒井教授がゼミナール活動の延長として2005年11月に学園祭のイベントとして開催したのが、ミニたまゆりの始まりでした。2005年2月に酒井先生はドイツミュンヘン市で開催されているミニ・ミュンヘンの活動を知り、深く感銘を受け、この活動を大学で展開する事でプロジェクトマネジメントの学習教材として学生への教育効果が期待できると考えるようになりました。その考えを実践するために何人かの教員の協力者を得て小規模ながらイベントを実現させることに成功しました。

ミニたまゆりは、田園調布学園大学と川崎市教育委員会との連携事業です。

National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

第12回ミニたまゆりの概要	
開催期間	平成29年2月11日（土）・12日（日）
開催時間	10:00～16:00
場　　所	田園調布学園大学　2号館・なでしこホール・５号館
対象年齢	５～15歳（小学校未就学児は付添いが必要）
参加費用	1日　300円
事前予約数	1,541名
参加児童数	1,112名
来場者人数	2,500名（2日間　保護者・ボランティア含む）

子ども会議の概要		
日　　時	高学年グループ	低学年グループ
第1回 10月29日	市議会の仕組みについて理解する	キャッチフレーズを考える
第2回 11月19日	川崎市を良くするためのアイデアを考える	オープニングパフォーマンスの練習
第3回 12月10日	プレミニたまゆりの準備	ユリーデザイン投票・パフォーマンス練習
第4回　1月21日	プレミニたまゆり（新百合ヶ丘駅で開催）	ミニミニたまゆり（リハーサル）

ミニたまゆりのキャラクター

ミニたまゆりを応援してくれる４人のキャラクター。ミニたまゆりを盛り上げるために様々なシーンで活躍してくれます。

ミニ太君　9才

元気な男の子
正義感が強いが、
たまに暴走する事も・・・
少しオッチョコチョイ

マユリちゃん 11才

おしゃれ大好き女の子
しっかり者のお姉さん
ミニ太君のブレーキ役

ブラック

子どもの町で
悪事を繰り返す困った奴
いつもレッドに追いかけられている
時にはエスカレートして
裁判に発展する事も・・・・

レッド

ミニたまゆりの
平和を守る正義の味方
いたずら好きのブラックを
いつも追いかけている

ミニたまゆりのルール

①仕事をさがす

職業案内所でやりたい仕事を探します。
仕事が決まったら、市民カードに時間を書いてもらい、仕事の会場に移動します。

②仕事をはじめる

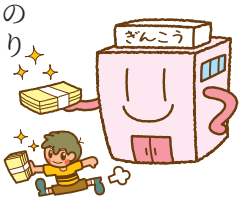
仕事を始める前に、市民カードを店長に渡すのを忘れないでね。
10分以上遅刻をすると仕事ができなくなるよ。

③仕事をやめる

仕事が終わったら、働いた時間を書いてもらい市民カードにハンコをもらいましょう。

④給料をもらう

仕事が終わったら銀行で働いた分のユリーを受け取ります。
30分働くと4ユリー支払われます。



⑤税金を納める

ユリーをもらったら、税務署に行って税金を納めましょう。
税率は50%です。

⑥ユリーを使う

もらったユリーで食事をしたりゲームをして楽しみましょう。

ミニたまゆりの仕組み

1.もらえるお給料は30分４ユリー
2.給料の半分を税金として納める
3.困った事は大人スタッフに相談

※集めた税金で公共で働いた人への給料が支払われます

子どもの町でやってはいけない事

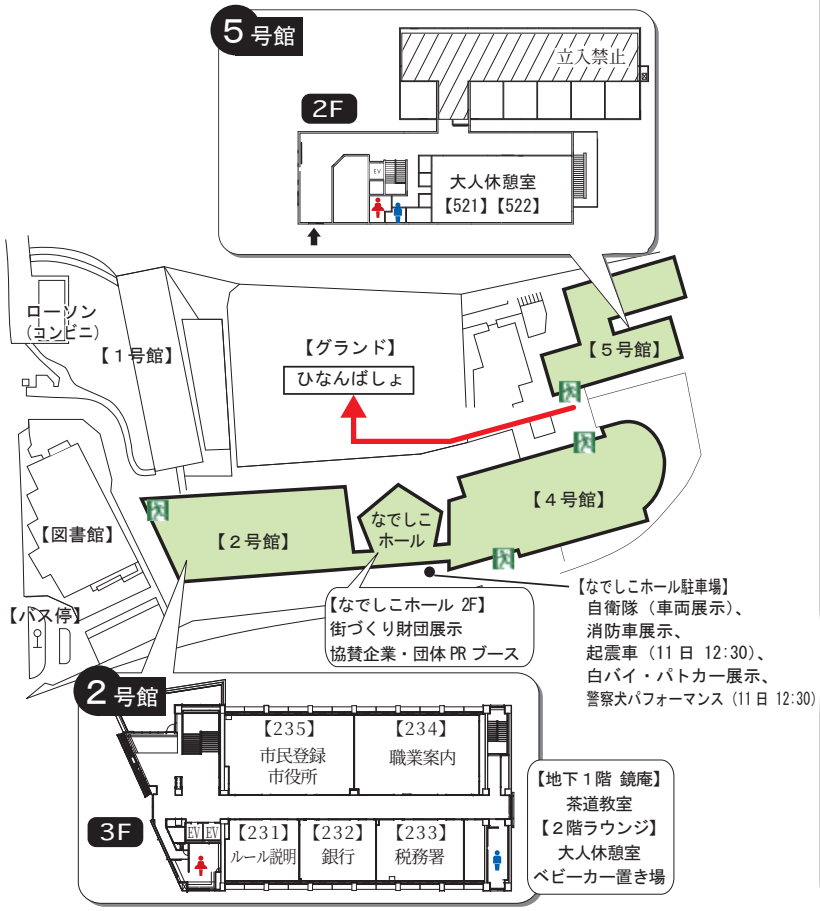
1.買ったものを他の人に売らない
2.ユリーの貸し借りはしない
3.ゴミのポイ捨てはしない
4.けんかをしない
5.階段や廊下を走らない
6.食べながら歩かない

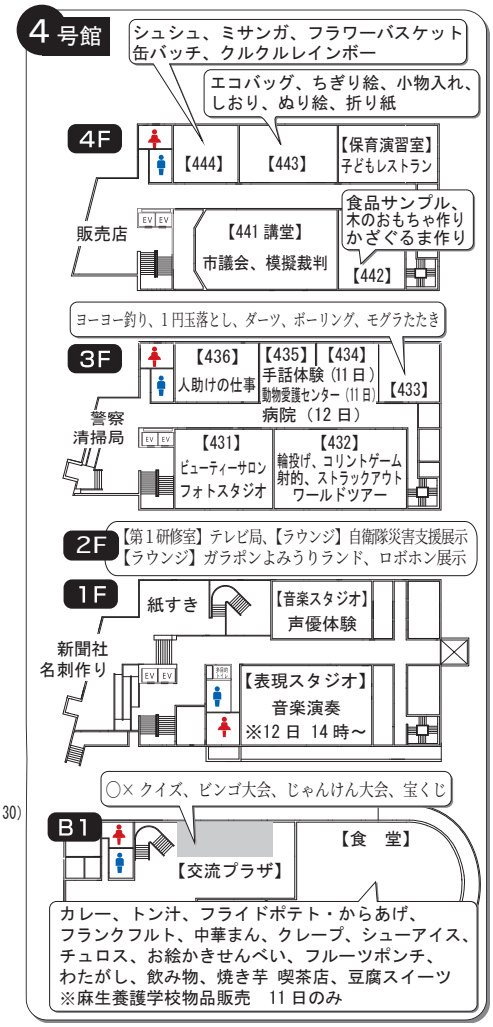
注意事項

1.仕事をするときは、ケガや火傷をしないよう気をつけてください。

2.食べ物を扱うときは、手を消毒し、エプロン・バンダナ・手袋を着用してください。

子どもがつくる町 ミニたまゆり

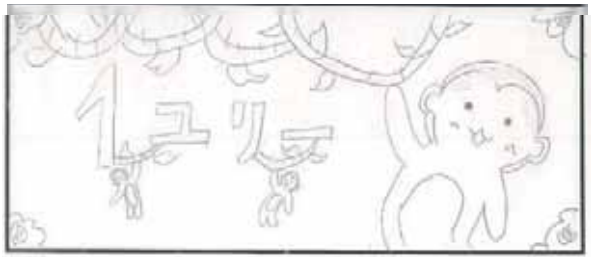


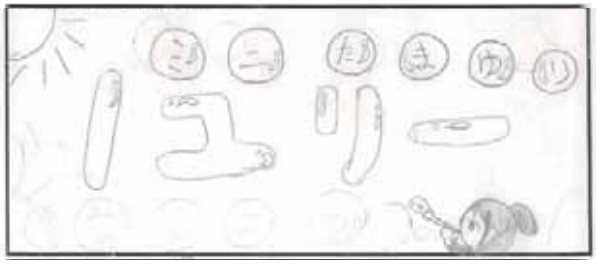


ミニたまゆりの通貨「ユリー」

ミニたまゆりの町の中で買い物をするには、「ユリー」という単位の地域通貨を利用します。30分お仕事をすると、銀行で4ユリーの給料が支払われます。銀行の隣にある税務署で税金として2ユリーを納めた後、残った2ユリーを買い物や遊びに使います。

今年のユリーのデザインは、子ども会議の参加者から募集したイラストを元に作成しています。子ども達の応募作品から、次の3つの作品が選ばれ、これらの作品を元に大学生の実行委員がユリーのデザインを作成しました。





ミニたまゆりの税率について

ミニたまゆりの税率は、なんと５０％！参加者のアンケートを見ると、多くの方々から税金が高すぎるとの意見をいただいています。しかし、第1回目から1時間働いて手元に残るお金が4ユリーという金額は一切変わっていません。第1回のミニたまゆりでは、1時間6ユリーと公表していましたが、実際に銀行で支払われる金額は2ユリーの税金を差し引いた4ユリーでした。第2回目では税金を納めるリアルな体験をさせたいという事で、1時間6ユリーを支払い、税務署で33%の税金（2ユリー）を納めるようにしましたが、小学校低学年には33%の税金を計算するのが難しく、税務署でのトラブルが発生しました。これらのトラブルを解消するために、1時間8ユリー（30分4ユリー）の給与を支払い、その半分を税務署に収めるという今の方法が定着したのです。

大人ユリーについて

参加児童の保護者の方々から、「お客さんが少なくてかわいそう。お客さんになってあげたい」「子どもから食事を購入して食べてみたい」といった意見が寄せられるようになり、保護者の参加料として500円を支払っていただき、大人専用のユリーを５ユリー分お渡しする制度を導入しました。労働せずに食事やゲームをする子どもがいないようにするため、大人ユリーは、子どもは使えません。

各グループの紹介

グループ名	内　容	店舗名
公共	町の入り口になる市役所や職業案内・銀行などです。その他、警察署・清掃局など、市民の生活を支え、暮らしやすい町のための仕事が多く用意されています。公共内の仕事の給料は、税務署で集めた税金から支払われます。	市役所・職業案内・銀行・税務署・警察署 新聞社・人助けの仕事・清掃局・自衛隊
製作	子どもたちがしおりや折り紙などを製作します。製作物は併設された販売店に陳列されます。自分で作成したものは商品なので、販売店で自分の作品をユリーで購入することができます。	小物入れ・しおり・エコバック・ぬり絵・折り紙 シュシュ・ミサンガ・販売店・名刺作り 紙すき・ちぎり絵・フラワーバスケット クルクルレインボー・風車作り・缶バッチ 木のおもちゃ作り・フォトスタジオ・名刺作り
遊び	自分で稼いだユリーで、色々な遊びが体験できる店舗がそろっています。ゲームなどで遊ぶと、その得点に応じ駄菓子など景品がもらえます。射的の鉄砲や輪投げの輪などの店舗で必要な物は子どもたちが用意します。	ヨーヨー釣り・1円玉落とし・ボウリング モグラ叩き・輪投げ・射的 ストラックアウト・コリントゲーム 玉入れ・ワールドツアー
食事	子ども達が用意した食品を販売する店舗が多数用意されています。衛生面を考え、多くの店舗では、学生食堂で調理済みの食材を子どもが盛り付けてお客さんに提供します。 また、喫茶店など保護者の方が現金で楽しめるお店も用意しました。	クレープ・フルーツポンチ・飲み物・カレー 中華まん・豚汁・フライドポテト唐揚げ フランクフルト・シューアイス チュロス・お絵かき煎餅・綿菓子・豆腐スイーツ 焼き芋喫茶店・麻生養護学校物品販売
イベント	毎年子どもたちがたのしめるようなイベントを開催しています。今年度は新イベントとして警察犬、ロボホン、茶道教室、木のおもちゃづくり、動物愛護センターなどが行われました。そして今年度新たな試みとして、開会式・閉会式を新しく建設された、なでしこホールにて行いました。	開会式・閉会式・模擬裁判・市議会・宝くじ エコバザー・自衛隊車両乗車体験・食品サンプル パトカー白バイ乗車体験・警察犬パフォーマンス 消防車起震乗車体験・じゃんけん大会・ビンゴ大会 ガラポン・病院体験・○×クイズ・茶道教室 子どもレストラン・音楽演奏・着ぐるみ ロボホン展示体験・声優体験・手話体験 テレビ局・動物愛護センター・ビューティーサロン

公共グループの報告

グループ長の感想

公共には、市民登録や職業案内所等のミニたまゆりの町で核となる部署が集まるところです。毎年より良い町にするために、昨年度の反省を踏まえ改善案を考えています。

今年度は職業案内所に、教職員のご協力によりバーコードシステムの導入を行いました。初の試みで大変な部分もありましたが、事前準備から当日まで、グループの学生スタッフが積極的に動いてくれていたので、大きなトラブルは起きず非常に助かりました。来年度に向けて、より良いミニたまになるよう改善していきたいと思います。

そして、今年度ご協力いただいた企業団体様、教職員の皆様、学生スタッフの皆さん、ありがとうございました。

公共グループのお仕事一覧

市民登録	登録料金（３００円）を集める	人助けの仕事	町の中で困っている人を見つけて助ける
職業案内	仕事を紹介する	警察署	落し物や迷子の対応・町の安全を守る
銀　行	子どもに給与（ユリー）を支払う	自衛隊	物資等の展示
市役所	アンケート回収・大人ユリーの販売	新聞社	取材した記事や写真から新聞を発行する
税務署	給与の５０％を税金として支払う	清掃局	町をきれいにする

職業案内所

バーコードシステムを導入しました。お店の店員数や働く時間を、バーコード読み取りシステムで管理しました。また、モニターを使い募集店員数と現人数を掲示し、随時更新しました。

税務署

ミニたまゆりの町では、税率50%となっています。税務署では納めた税金が、どのようなことに使われているのかを掲示しています。税という仕組みを子どもたちに理解してもらえるように、工夫を重ねています。

人助けの仕事

昨年度から引き続き企業団体様にお手伝いいただいた部署です。昨年度の福祉センターから人助けの仕事に名称を変えたことにより、子どもたちに伝わりやすくとても人気のあった仕事です。また、保護者の方にも興味をもっていただけました。

制作グループの報告

グループ長の感想

制作グループは、子どもたち１人ひとりが職人や店員になり、商品作りや販売店のお仕事を行います。

私たち制作コアスタッフは、「子どもたちが飽きを感じないよう新しいお仕事を開発し提供する」を目標にして活動してきました。

今回はくるくるレインボーというお仕事を新たに増やして制作グループは行ってきました。制作エリアは前回より子どもの人数が多い印象を受けました。新しい試みとして始めたくるくるレインボーも最初は戸惑いや不安がありましたが、子どもたちが喜んでくれている姿を見て、やって良かったなと思いました。

今回のミニたまゆりの体験が子どもたちにとってより良いものになったら嬉しいです。

制作グループのお仕事一覧			
シュシュ	毛糸を使い髪どめを作る	かざぐるま	かざぐるまを作る
ミサンガ	紐を結んでミサンガを作る	エコバック	紙を折ってバッグを作り、装飾する
小物入れ	牛乳パックに飾りつけをする	しおり	絵を描くなどデザインし、穴に紐を通す
紙すき	材料が溶けた水をすくってハガキを作る	販売店	作ったものをお店で売る
折り紙	様々な難易度の折り紙を折る	名刺	パソコンを使って名刺を作る
塗り絵	様々なキャラクターの塗り絵ができる	ちぎり絵	紙をちぎって作品を作る
フラワーバスケット	箱にお花（造花）を生ける	くるくるレインボー	割れないシャボン玉のようなおもちゃを作る

くるくるレインボー

今回初めての試みとして行いましたが、年齢制限がなくたくさんの子どもたちが来てくれました。しかし、年齢が小さいほど難しかったようなので、どの年齢でも分かりやすく、楽しんでもらえるよう改善して次に活かしたいと思いました。

紙すき

毎年、川崎市の橘リサイクルセンターに機材と材料を提供して頂いて実施しています。年齢関係なく出来るので毎年多くの子どもたちがお仕事をしに来てくれています。スタッフより子どもたちの方が上手に作るのを見て驚きました。

小物入れ

小物入れは、牛乳パックを使って作るお仕事です。子どもたちの作る作品は大人の私たちですら思いつかないデザインであり、出来上がった作品を見て驚きを感じたのを覚えています。改めて子どもの発想力の凄さに感動しました。

遊びグループの報告

グループ長の感想

今年度は、昨年度に多くの集客があった遊びブースの規模を大きくしました。ストラックアウトやモグラ叩きは昨年度の反省をいかして、より子どもたちが楽しめるような作品作りに努めました。また子どもたちが気軽に遊べるように１ユリーの遊びを増やしたため多くの子どもたちの遊ぶ姿が見られました。

改善点としては、昨年と同様、ヨーヨー釣りの景品が途中で終わってしまった為、在庫を増やす等して対応していきたいと考えています。

遊びグループのお仕事一覧			
ヨーヨー釣り	縁日でおなじみのゲーム	モグラ叩き	穴から出てくる人形をハンマーで叩く
コリントゲーム	ピンボールゲームの一種	輪投げ	ペットボトルの的に輪を投げ入れる
一円玉落とし	水槽に一円玉を落とし、的に入れる	射　的	輪ゴム鉄砲で的を狙い当てる
ボウリング	ペットボトルのピンをボールで倒す	ワールドツアー	世界の四つの遊びを体験 案内役として説明等を行う
ストラックアウト	ボールを投げて的に当てる		

遊び全体

今年も遊びブースの立地条件が悪かったが看板を大きくしたり、1日目からゲームの値段を１ユリーにするなどの工夫をしてお客さんを獲得出来ていました。しかし、値段のバランスが難しく１ユリーのゲームだけが混んでしまう傾向がありました。

コリントゲーム

つまみを引いて玉を打ち出すと玉はピン（釘）にぶつかりながら、不規則な動きで下の得点エリアの中に入ります。

ルールが分かりやすいので子どもから大人まで楽しめるゲームです。

ボウリング

去年はあまり人気がなかったのですが、今年は一番人気でした。レーンなども机を置くだけの作りから、しっかりとしたレーンに変えたことなどが良かったのではないかと思います。

食事グループの報告

グループ長の感想

今年は、前回の反省点を活かしながら、様々な新しい企画、メニューを取り入れて準備を行い、本番に臨みました。

昨年と同様にインフルエンザ、ノロウイルス対策に力を入れて取り組み、反省点として挙がっていた売り切れの早さについても対策を考え、少しでも多くの方に利用してもらえるようにしました。

また、新しい企画として、大学の部活動と協力し、親子茶道教室を開催。普段は見ることのない茶道という物に触れて、興味をもっていただけたので今後続けていければいいなと考えています。

今回の反省点は、前回と同様に食事するスペースが少なかった点と売り切れを防ぐために食品を多くし過ぎてしまい、余らせてしまった点や学生同士の連携が上手く出来なかった点などが挙げられます。次回はより良く楽しんでいただけるようにしていきたいと思います。

食事グループのお仕事一覧

フルーツポンチ	フルーツにジュースなどを注ぎ販売	飲み物	ジュースをコップに注ぎ販売
シューアイス	冷凍のシューアイスを販売	フランクフルト	フランクフルトを皿に盛り付け販売
カレー	ご飯とカレーをお皿に盛りつけ販売	豚　汁	豚汁を盛り付けて販売
綿菓子	専用の機械で綿菓子を作り販売	クレープ	生地にフルーツをトッピングして販売
豆腐スイーツ	協賛団体による豆腐スイーツの販売	中華まん	中華まんを温めて販売
焼き芋・喫茶店	コーヒーと焼き芋を販売	チョコバナナ	カップ内のバナナにチョコをかけて販売
子どもレストラン	家族へオムライスとパフェを作り販売	チュロス	チュロスに味付けして販売
麻生養護学校物品販売	キーホルダーなどの販売	フライドポテトから揚げ	唐揚げやポテトを容器に盛り付けて販売

クレープ

昨年とは、少し食材を変えてお店で売っているクレープをイメージしてもらえるようにしました。クレープ生地にコーンフレークやマシュマロをのせ、ジャムやチョコレートソースをかけて完成です。多くの子どもたちがとても楽しそうに働いてくれました。

茶道教室

今年初めて行った親子茶道教室。お点前を見たり、自分でお抹茶を点てる体験をしました。子どもたちは茶道の歴史を目をキラキラさせて聞いていました。ミニたまゆりをきっかけとして少しでも茶道に興味をもって頂けたら嬉しいです。

子どもレストラン

レストランのシェフの指導のもと、子どもがシェフを務め、トロトロオムライスといちごパフェを作ります。子どもシェフのみんなが保護者の方のために真剣に調理を行っていました。

イベントグループの報告

グループ長の感想

イベントグループは、毎年たくさんの協力団体に参加していただき、子どもたちが普段体験する事がない、食品サンプル作りや病院の仕事体験といった珍しい仕事が多数用意されています。

また、自衛隊の方や警察、消防関係の方々のお力により、日常では乗車することができない、自衛隊車両や消防車、白バイ、パトカー、起震車等にも乗車体験をすることができるようにして頂きました。

当日２日間、子どもたちの笑顔や興味津々な様子が多くみられました。

学生スタッフも、積極的に子どもたちと関わり、臨機応変に行動してくれたおかげで、無事に２日間を終えることができたと思います。

イベントグループのお仕事一覧

じゃんけん大会 ○×クイズ ビンゴ大会	ゲームに勝利すると、 お菓子をもらうことができる 簡単で、子どもが参加しやすい	病院体験	血圧・身体測定などの体験ができる
		ガラポン	よみうりランドによる抽選会
		消防署	消防車の展示・起震車の乗車体験
宝くじ	市役所で販売した宝くじの抽選会	着ぐるみ	着ぐるみによるグリーティング
白バイ パトカー展示	白バイ及びパトカーの展示・乗車体験	自衛隊 車両展示	自衛隊による車両の展示・乗車体験
ビューティー サロン	メイク・ネイル等の体験	自衛隊災害 支援展示	自衛隊による災害時に関する 情報や制服などの展示
フォトスタジオ	写真を撮影・印刷・販売を行う	食品サンプル	協賛団体による食品サンプル作り

ビューティーサロン

プロのスタッフの方々と一緒に、ネイルやハンドマッサージの仕事を体験しました。毎年多くの子が仕事の体験を希望しているブースで、今回も大賑わいとなりました。

動物愛護センター

動物愛護を呼びかけるポスターの作成や、収容業務の体験を通じて、子どもたちは動物愛護の大切さを学ぶことができました。今回初の試みでしたが、多くの子どもが動物愛護について興味関心を抱き、自分で考えて仕事をしてくれたと思います。

フォトスタジオ

ミニたまゆりに参加した記念に撮影ができたり、ビューティーサロンでオシャレをした女の子が撮影できたりと、今回初めての試みながら、多くの子どもたちに人気でした。仕事をする子どもたちは実際に本物のカメラを扱うことができ、興味津々な様子でした。

オープニングセレモニーの報告

担当学生の感想

学生の応用力が求められる。
子供の頃の気持ちを忘れない。
お客さんが入ると学生も子供も気が締まる。
20時間も満たない練習時間で10分弱の劇を完成させるのは想像では簡単だが、子供の予期せぬ動きに対しての対応などもあり想像以上に時間と労力、人数が必要。結果意思疎通ができた瞬間に完成が見え、成功につながった！
感動は、人の想像を越えたときに出る感情である。
その事を踏まえてミュージカルを振り替えると、最初はお客様に見せられる状態ではなかったと思う。しかし、子どもたちと学生が劇の内容の意味を理解出来てくると、演技に感情が込められ、楽器担当の子たちは一生懸命演奏しようという気持ちが芽生え全体の統率がとれ始めた。
（樋口）

音楽指導・前山さんの感想

オープニングセレモニーのパフォーマンスを子どもたちと一緒に作り上げて感じた一番のことは、大学生たちの協力無くしては成功しなかったということ。とても助けてもらい本当に感謝している。と同時に、大学生たちにとっても子どもたちに何かをしてもらうことの難しさを身をもって感じることのできる貴重な機会だったと思う。そして、僕自身は「やり切る力」というのが大切だということを再確認。色んなハプニングがあって、果たして形にできるのか不安に思ったけど、大学生たちと、子供達を信じて「なんとかなる」という前向きな姿勢で取り組めば本当になんとかなるということを改めて感じました。本番の子どもたちのパフォーマンスは感動的だったし大学生たちのフォローも胸を打つ場面の連続でした。関わってくれた皆さん本当にありがとう！（前山）

初の試みということもあり、計画するところから当日までばたばたとしていましたが、だからこそ学生はやりがいが持てたと思います。
やり方を模索していく中で、どの部署よりも子どもたちとの関わりが多く、私たち学生の成長にも繋がりました。
なにより、私たちの期待にしっかりと応えてくれる子どもたちの頑張りには感動するものがありました。
来年は今年より、もっと良いものにしてミニたまゆりらしい、楽しくわくわくするような、オープニングにしてほしいと思います。（松野）

各パートと紹介	
歌	子どもたちの元気な歌声を観客に届けます。
カップス	カップを使い、手や机で、音を奏でます。
演劇	とある学級のちょっとした日常の１コマを表現しました。
ドラム タンバリン	タンバリンやドラム缶・一斗缶を利用して、ベースになる音を出します。

一年次学生スタッフの感想

最初は緊張して、演奏や演技がうまくできなかったこどもたちと、日を重ねるごとに仲良くなって、楽器も演技もどんどん上達していくのを身をもって体感しました。
最後にはみんなの心が１つになりミュージカルを成功させる事ができました。
ミュージカルを通してこどもたちだけではなく、同じ大学に通う仲間や先輩とも仲良くなれました。
子どもの気持ちを考えたり、どうしたら仲良くなれるかなど、アドバイスも沢山頂きました。
こんなにやりがいのある経験は滅多にないので参加してよかったです！
（桐生）

初めてのミニたまゆりでのミュージカルで、たくさんのことを学びました。限られた短い練習時間の中で子どもたちとのコミュニケーションをとりつつ、歌や演奏の練習を教えていきました。特に、練習に対して意欲的ではない子どもへの声がけが難しく、まずは子どもたちとの距離を縮めることから始めていくよう心掛けました。本番当日では、たくさんの保護者の方や外部の方々にご覧いただくことができ、とても実りのある活動となりました。来年のミュージカルでは、今回の反省を生かしより良いパフォーマンスになるよう、また一年、先輩や後輩、そして子どもたちと力を合わせて頑張っていきたいです。（林）

私はミュージカルに向けて目標を2つ持っていました。一つ目は多くの子どもたちと積極的に関わること。二つ目は子どもたちが新しい友達と仲良く協力できる環境を作ることです。子どもたちが「できたよ！」と教えてくれると私は自分のことのように嬉しく思いました。けど、やはり子どもたちと接するのは難しく、悩む事も多々ありましたが、先輩方を参考にして接したりすることができました。今回の事を踏まえ、改善点や改善方法を見つけ今後の活動に生かせるようにがんばります。
ほんとうに貴重な体験ができました。
（泉野）

模擬裁判・市議会の報告

グループ長の感想

模擬市議は模擬裁判と市議会の2つの事を行います。参加することができる子どもたちには制限があり基本的に高学年の子どもが優先されます。裁判員や市議会議員という役割をやっていただき意見や質問をしてもらい裁判や市議会を進めていきます。大人の方や小さい子は傍聴人として参加することができます。司会進行や裁判の進行は学生が行い子どもたちと上手に連携をしながら進めていきます。どうしたら子どもたちに理解してもらえるのか、意見を引き出すためにはどうしたらいいのかをあらかじめ学生同士で話し合い本番に活かしていきます。また、模擬市議はほかのお仕事とは異なり何回も行われるわけではなく、1日1回ずつしか行うことができません。しかし、1人1回という決まりはありません。そのため両日とも参加ができるので2日間参加してくださる子もいます。そのような子たちのためにも同じ内容になることがないように工夫をして両日模擬裁判・市議会を行っています。

市議会

→　市民から出てきた意見から、
町をより良くするための論議を行う

市議会では町をよくするために目安書を元にして反映できるように話し合いをします。また今回は新しい試みとして子ども会議から、川崎市議会に提出する町を良くするためのアイデアについて話し合ってきたため、それを活かしてより詳しい内容についての話し合いをしました。

1日目は市議会についてクイズなどを用いて説明をしたあと、川崎市議会に提出する提案についての話し合いをしました。そこではどんなことが必要か、今の現状についてなどを子どもたちに意見として出してもらいました。例えばLEDの街灯を増やしてほしいというお願いに対し、どの辺りが暗くて困っているのかなど、より具体的に考えを出してもらいました。

2日目にメインとして行ったのは目安箱についてです。ミニたまについて良かった点や改善してほしい点などについて話し合いを行いました。良かった点はこのまま継続していけるように。また改善点は来年度には改善し、学生側でしっかりと共有をして反映できるようにと考えています。

模擬裁判

→子ども裁判員の意見を元に、
被告人に判決を下す

模擬裁判ではある事件について裁判を進めていきます。裁判長や被告人・被害者など、裁判を進める上での関係者を学生が行い、裁判員や傍聴人などを子どもたちに行ってもらいます。そこで、裁判員や傍聴人の子どもたちから意見や質問を出してもらい、子どもたちの意見を大切にしながら裁判を進めていきます。

今回は傷害罪についての事件を行いました。1日目は体育の授業中のドッヂボールの際に起きた事件について裁判を行いました。レッドが投げたボールでケガをしてしまったブラックはレッドがわざとボールを当てたのではないかと思い訴えた。という内容でした。裁判中にはレッドやブラックにボールの確認をする際に、代わりにリンゴなど他のものを見せて子どもが飽きないような工夫も取り入れつつ裁判を進めていきました。裁判員や傍聴人の質疑応答の時間には様々な質問があり、1日目はレッドは無罪という形でお互いに握手をして和解し閉廷となりました。

2日目はほとんど内容は変わっていませんが体育の内容がサッカーに変わり裁判が行われました。1日目より2日目の裁判の方が裁判員や傍聴人からの細かい質問が多くありました。2日目も無罪となりこちらもレッドとブラックは和解して無罪という形で閉廷しました。

川崎市長・麻生区長との対談

川崎市長と子ども市長の対談

第12回ミニたまゆりでは今回新設されたばかりのなでしこホールにて、川崎市の福田紀彦市長らにミニたまゆりにお越しいただき、子ども市長、副市長の子どもたちとの会談を行いました。ここでは子ども会議にてあらかじめ決められていた４つの請願を、子ども市長らから福田市長へ提出しました。請願書の内容は、「LEDの街頭を増やしてほしい」「110番の家に入りやすくしてほしい」

「動物愛護の募金活動を増やしてほしい」「ミニたまゆりの様なところを増やしてほしい」といった、子ども目線でありながらもしっかりとしたものでした。自分が住んでいる町のことを考えて、みんなで考えた意見です。福田市長は、子どもたちの意見に真摯に取り組んでいくとおっしゃっていました。今後の市の動きに皆注目しています。

子ども市長は今回の会談に対し、「請願内容が実現したらうれしい」といってくれました。

麻生区長と学生スタッフの対談

今年度も昨年度に引き続き、子ども市長と川崎市市長との対談を終えた後、お時間を割いて頂き学生スタッフ代表３名とも対談して頂きました。川崎市長のご都合により残念ながら市長には参加して頂けなかったのですが、麻生区長を始めとした川崎市教育長、麻生郵便局、麻生消防局長の方々とミニたまゆりの運営に関することや今後の方針について話し合っていきました。

対談では、主に区長や教育長の方々が私たち学生スタッフに質問していき、それを学生スタッフが自分の意見を述べていくという流れで進んでいきました。所々学校としての方針等の意見を述べるときは番匠先生に答えて頂きました。

代表スタッフの中に２名の１年生が居ましたが、それぞれ緊張しつつも自分の意見をしっかりと答えており感心しました。普段の生活でほとんど会うこともない区長や教育長と対談することはとても貴重な経験です。この経験をフィードバックし、自身の成長に繋げると共に私たちの代でこのような体験がなくなることがないよう、又、より良いミニたまゆりを作りあげていけるように尽力していきたいと思います。

（委員長　渡邉紗菜）

協賛企業・団体のブース

今年度で12回目となるミニたまゆり。年々協力していただいている団体・企業が増えてきました。今回は史上最多となる40の企業・団体・個人の方々が参加していただきました。今回から新たに参加する事になった企業・団体は、シャープ株式会社(ロボホンの提供・展示等)、株式会社シグマ(フォトスタジオ)、西生田中学校おやじボーイズ(市民登録ボランティア)、川崎市議会(子ども市議会への協力)、川崎市動物愛護センター(動物愛護センターの仕事体験)、かわさきマイスターの昼川捷太郎氏(木のおもちゃ作り)です。その他イベントでは、車両展示ブースにて、麻生警察署による警察犬パフォーマンスが行われました。

動物愛護センター

フォトスタジオ

ロボホン

市民登録ボランティア

警察犬

子ども市議会

子ども会議とは

「ミニたまゆり」の実現に向けて、毎年10月から月1回のペースで子どもたちを大学に招いて「子ども会議」を開催しています。子ども会議では、大学生が司会者となり、子どもたちと一緒に新しい町のルールやお店を考えたり、お店の接客の練習・イベントに必要なものの作成などの準備やミュージカルに向けた練習を行います。

毎回70人近くの子どもたちが参加し、子ども独自の斬新なアイデアをだしてくれます。

子ども会議に参加して、小物入れなどの製作方法やお店での接客の方法を覚えた子どもたちは、「ミニたまゆり」本番で、子どもたちのリーダーとして活躍し、自分たちが考えたルールや学んだ事を、別の子どもたちに指導します。

子ども会議に参加すると、１日につき４ユリーの報酬が支払われます。これは、子どもたちへの報酬という意味のほかに、オープン直後は町にユリーが流通していないので消費者が不在となり、店を開いてもお客が集まらないという問題を解決するという効果があります。

子ども会議の効果

毎回の子ども会議の中には必ずグループワークの時間が設けられています。子どもたちに、議題を投げかけグループにわかれ議論し、そこで集まった意見は最後の発表の時間に子どもたちに発表してもらいます。子どもだけの集まりでは活発な意見が得られませんが、ファシリテーター役の学生がうまく誘導する事によって、子ども独自の自由な発想が生まれてゆきます。

発表会で良い意見が発言された場合、積極的に町の仕組みに取り入れ、次回の子ども会議で町の決定事項として大きく取り上げ、子どもたちに周知します。この経験を繰り返す事で、子ども会議に参加する児童は、自分たちの考えが町づくりに繋がる事を理解し、ミニたまゆりを自分たちの力で作り上げているという実感を得られるのです。

子ども会議で決定した事項としては、町のキャッチフレーズである「友だちと協力できる未来へつながる元気な夢の特別な町」やユリーのデザイン、新しい店舗のアイデアなどがあります。

また、子ども会議では、市長選挙を行い立候補者の中から、１人の児童が子ども市長として、６人が副市長として選出されました。

当日の状況

第１回子ども会議では、まず「ミニたまゆりとは何か」「子ども会議とは何か」についての説明を行いました。その後子どもたちとの親睦を深め、緊張をほぐすためにアイスブレイクゲームを行いました。

低学年では、ミニたまゆりのキャッチフレーズを考え、各グループで案を出し、どのグループのキャッチフレーズがいいかを全員で決めました。その後、オープニングパフォーマンスの説明と役割分担を行いました。

高学年では、市議会について動画を使いながら説明し、その後、「プレミニたまゆりで実際に行う仕事内容は何にするか」について各グループごとに話し合いをました。

学生と子どもたちは、お互いに交流を深め、一回目の子ども会議を終えました。

第１回　子ども会議

日時：2016年10月29日（土）
場所：234教室　235教室
目的：子どもたちの親睦を深める
　　ミニたまゆりのキャッチフレーズを考える

～ 時間割 ～

- ミニたまゆり・子ども会議とは？
- アイスブレイクゲーム
- ミニたまゆりのキャッチフレーズを考える
- 市議会とは？
- オープニングパフォーマンスの説明と役割分担
- プレミニたまゆりの仕事内容を考える

～ 宿題の説明 ～

- ユリーのデザインを考える
- 市長になりたい人は、その理由を考える
- 川崎市へのお願いを考える

子ども会議の感想

今回は今までとは違い、学年を分けて行いました。初めはみんな、緊張している様子でお話を聞いてくれていましたが、時間が経つにつれ徐々に笑顔が見られるようになりました。

アイスブレイクゲームはみんな楽しそうに行っていて、学生と子どもたちはゲームを通して打ち解けられたように感じました。

市議会については少し難しい部分があったとは思いますが、メモを取りながら聞いてくれる子どもいてみんな真剣でした。

そして、プレミニたまのグループワークを行った際には、どのグループもみんなで協力して話し合いをしてくれていて、自分たちがやりたいと思うお仕事を考え意見を出してくれました。

～ 第12回ミニたまゆりのキャッチフレーズ ～

友だちと協力できる未来へ
つながる元気な夢の特別な町

当日の状況

第２回子ども会議では、低・高学年ともに市長・副市長選挙を行いました。高学年から市長が一人、その他低学年と高学年で副市長を３人ずつを選出し、当選した市長・副市長はお互いの教室に訪問して一人一言ずつ挨拶をしました。低学年の副市長さんたちが高学年の教室で挨拶をしている姿はとても立派でした。
選挙では、本物の投票箱と記入台を市からお借りし、本格的な選挙を体験しました。

低学年では、オープニングパフォーマンスの練習を行い、和気あいあいとした雰囲気での練習になりました。

高学年では、「川崎市をよくするためのアイデアを考えよう」というテーマで話し合いをしました。その後ミニたまゆりの町のルールを考え、プレミニたまゆりの説明をしプレミニたまゆりの体験・練習を行いました。

子ども会議の感想

第2回の子ども会議では、ミニたまゆり本番でどのようなお店をやりたいかの話し合いを行い、各グループから1つの案を出し合いました。何回かミニたまゆりに参加している子どもを中心に「去年とは違うお店をやりたい！」「去年、お客さんがたくさん来たお店をまたやりたい！」など、たくさんの声が聞こえて来ました。子ども市長の選挙も行い、選ばれた市長さんたちに自己紹介をしてもらいました。ドキドキしながらも、ミニたまゆりに向けての意気込みなど、お話ししていました。

（鈴木綾奈）

第２回　子ども会議

日時：2016年11月１９日（土）
場所：234教室　235教室
目的：子ども市長選挙・副市長選挙
　　川崎市をよくするためのアイデアを考えよう

～ 時間割 ～

- 市長選挙・副市長選挙
- 川崎市をよくするためのアイデアを考える
- 町のルールについて考えよう
- オープニングパフォーマンスの練習
- プレミニたまゆりの練習

～ 宿題の説明 ～

- 子ども市長にラジオで話してもらいたいことを考える

市長選挙 に立候補した子どもたちは、「立候補した動機」や「ミニたまゆりをどんな町にしたいか」など自分の意見を堂々と演説していました。選挙で選ばれた子ども市長は、皆やる気があり自分の意見をはっきり言える頼りがいのある子どもたちです。子ども会議終了後、会場に残ってもらい、今後の市長の仕事ににについて説明を受けました。子ども市長としての仕事として、川崎市のコミュニティー放送局であるFM川崎の生放送番組などに出演し、学生スタッフとともにミニたまゆりのPR活動に貢献してくれました。

当日の状況

第３回子ども会議は、一年次のみ、なおかついつもと違う教室での開催となりました。子どもたちがいつもと違う場所での開催に戸惑いを示さないかなど不安要素は多かったのですが、無事会議を成功させることができました。

低学年は終始オープニングパフォーマンスの練習となり、子どもたちは終始、集中して取り組んでいました。

高学年では、前回に続き川崎市をよくするためのアイデアをだし発表しました。その後プレミニたまゆりの本番に向けて子どもたちが店員さん側、お客さん側に分かれて練習をしました。

後に、今年度のユリーのデザインを発表し、低・高学年それぞれで集合写真を撮影しました。

子どもたちは、少々慣れてきたのかそれぞれ学生との交流を深めつつ、やるべきことをしっかりとこなしていました。

第３回　子ども会議

日時：2016年12月10日（土）
場所：大会議室・スペースミューズ
目的：オープニングパフォーマンス練習
　　プレミニたまゆりの練習

～ 時間割 ～

- オープニングパフォーマンスの練習
- 川崎市をよくするためのアイデアを考えよう
- プレミニたまゆりの練習
- ユリーのデザイン発表
- 集合写真撮影

～ 宿題の説明 ～

- 川崎市長に質問したいことを考える

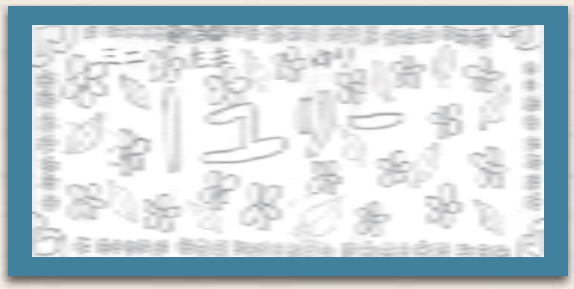
子ども会議の感想

一年次のみでの活動でした。
低学年側では学生は各々何をやるべきか、子どもたちをどうまとめるかを考えて行動できていたと思います。そのおかげで、子どもたちも怪我なく楽しんで練習に励んでいた様子でした。

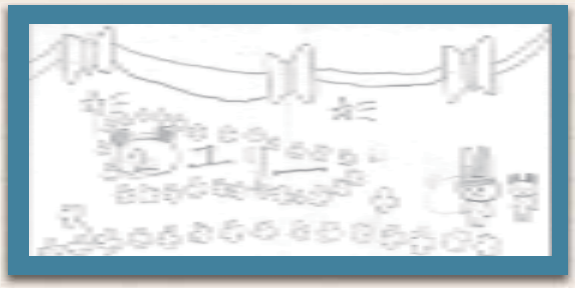
しかし、やはりずっと練習となると後半から飽きてくる子供も増えてきました。その子たちをまとめるのも学生の役目なのかもしれませんがもう少し、時間を考えたほうがいいのではないかと思いました。学生も子どもも怪我なく終わることが出来た一日でした。

（古江叶）

宿題として集まったユリーのデザインの例



石井　美空ちゃん(小4)



奥田　沙也ちゃん(小3)

当日の状況

第４回子ども会議では本番さながらのリハーサル、ミニミニたまゆり・プレミニたまゆりが行われました。

低学年は、オープニングパフォーマンスの練習ののちミニミニたまゆりを開催いたしました。前半と後半にわかれ、お店を営業する側とお客さん側に分かれて各々楽しんでおりました。

高学年ではミニたまゆりの練習として、プレミニたまゆりを行いました。一般のお客さんを相手に子ども達はドキドキ緊張しながらも楽しく接客をしていました。

第４回　子ども会議

日時：2016年１月23日（土）
場所：234・235教室
　　イトーヨーカドー新百合ヶ丘店
　　１階イベント会場
目的：オープニングパフォーマンスの練習
　　ミニ・ミニたまゆり

子ども会議の感想

第4回の子ども会議は、新百合ヶ丘にあるイトーヨーカドー内のエルミロードで一般の子どもたちを相手にミニたまゆりの練習をしました。

大学とは違う環境で行ったので、子どもだけでなく学生や先生たちも緊張し、時間が経つのがとても遅く感じました。

第2回、第3回の子ども会議で一生懸命に練習した成果を皆さん発揮している様子が見られました。

（鈴木綾奈）

～ リハーサル時の出店内容 ～

ミニミニたまゆり

もぐらたたき	射的	小物入れ
ネイルサロン	駄菓子販売	シュシュ作り

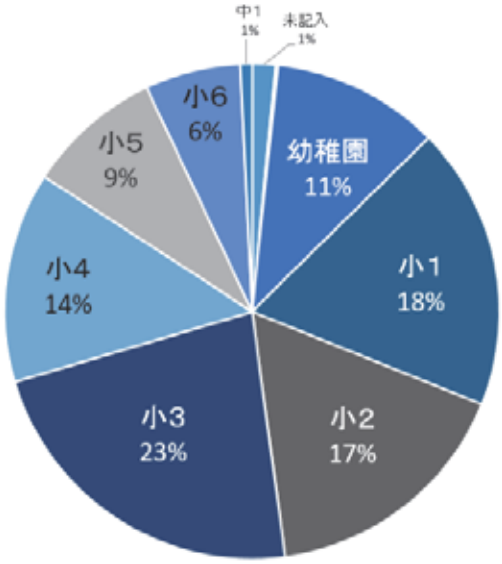
プレミニたまゆり

缶バッチ	しおり	デコパージュ	１円玉落し
コリントゲーム	クルクルレインボー	フラワーバスケット	輪投げ

アンケート集計結果
～　子ども　～

＊　アンケートの収集方法　＊
大学内数カ所にて用紙を配布
回収場所→市役所　回答数→６５４

何年生ですか？

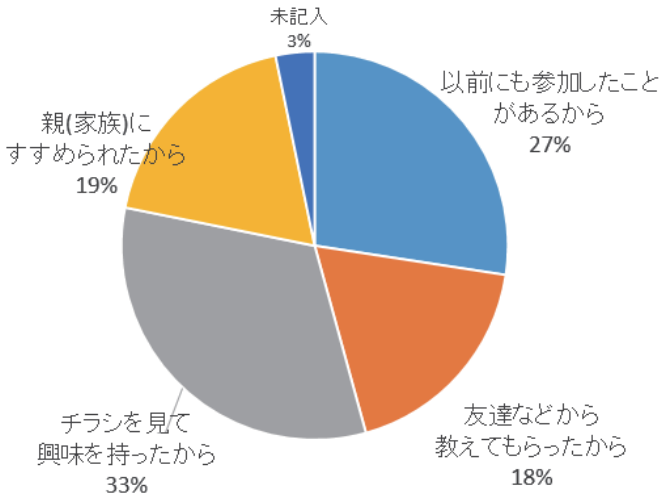


憧れの職業はなんですか？

１位	食べ物屋さん	４８票
２位	ファッション	４７票
２位	スポーツ選手	４７票
３位	病院（看護師等）	４２票
４位	芸能人（女優等）	３６票
５位	幼稚園・保育園の先生	２９票

何回目の参加ですか？

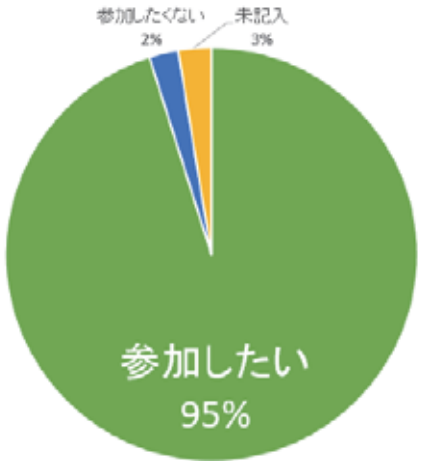
参加した理由は何ですか？



面白かったお店は何ですか？

１位	ビューティーサロン	５１票
２位	射　的	３９票
３位	銀　行	３４票
４位	ヨーヨー釣り	２９票
５位	ボウリング	２４票

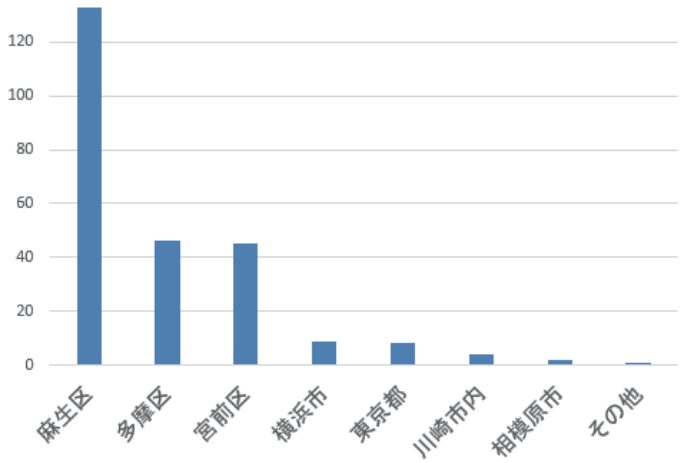
来年も参加したいですか？



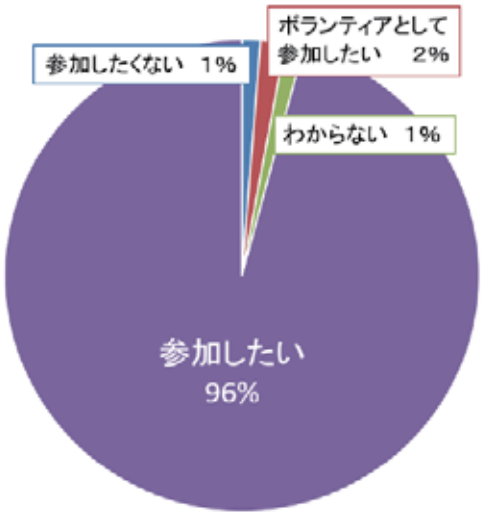
アンケート集計結果
～　保護者　～

＊　アンケートの収集方法　＊
大学内数カ所にて用紙を配布
回収場所→市役所　回答数→９３

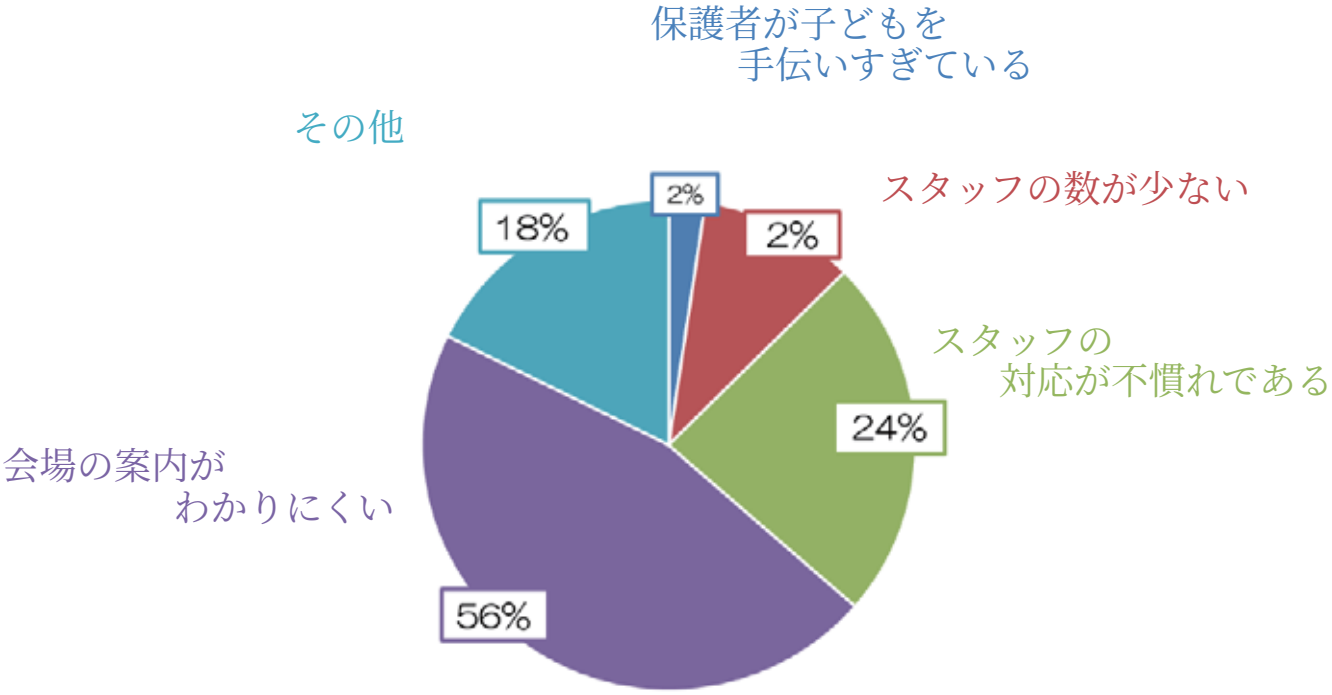
どこから来ましたか？



来年も参加したいですか？



改善点はなんですか？



※改善点に関する詳しい内容は
２４ページをご覧ください。

大人アンケート 自由記述（感想）

・職業案内所での職業ごとの募集状況が逐一確認できる大きなモニターはとってもわかりやすくてよかったです。
・特別プログラムが魅力的でよかった。
・保護者が、きつめに学生にあたっていても学生は頑張って対応していてよかった。
・今回の体験を通してお金の大切さや人とのつながり等社会で生活する上で貴重な時間となりました。ありがとうございました。
・制作、折り紙製作指導が非常に丁寧で良かった。
・300円の参加費でここまで1日遊び、学べとても楽しむ事が出来て素晴らしいです。
・こう言う催しで子ども達が成長していくのが楽しいです。
・1日目終了後、子どもが「お父さんもお母さんも、こんな風にお仕事してるんだね。大変だね。」と言ってくれました。
・給与から、税金を取られる事を子どもはまだ理解できず、戸惑っていました。（小学生低学年）しかし、社会の仕組みを学ぶよい機会となりました。
・時間を守って仕事に行かなければならないこと、最後まで成し遂げないと報酬はもらえないこと、などを学ぶ場として貴重だと思います。「税金」のシステムは子どもたちには、世の中の仕組みを実感できる仕組みだと思います。
・税を払うという事を知ってびっくりしていました。来年もあまりシステムを変更しないでくださると子どもだけで参加しても大丈夫かなと思います。今年は親子で参加しましたが来年はお友達も誘ってみます。
・小さい子にも分かりやすかったです。子ども達とても楽しんでいました。お客さんが少ないので、お客さん役を増やす取り組みがあると、更に充実するかもしれませんね。例えば学生さんにお客さんになってもらったり、近くの保育園児をゲームコーナーに招待したり、付添いで来た保護者に、お客さんが少ないコーナーのチケットを配布したりなど。毎年、新しい取り組みがプラスされていて、とても素晴らしいです。
・いつでも就きたい仕事に就けるわけではないこと、仕事の楽しさ、対価としてユリーをもらえて税金も払うこと。自分で働いてもらったユリーで買い物できるなどが体験できてとても良かったと思います。
・スタッフの方々がみなさん優しくて、子どもたちにも親切に接してくださりありがとうございました。自分でゲームをしたり食べ物を買ったりするのにユリーが足りなくなると仕事をしなくちゃ、という感覚が生まれたので良かったと思います。
・12日は早くにきて仕事を選べる状況だったのに選り好みをしているうちに興味のない仕事になってしまったそうです。ただその仕事もやった結果面白かったそうです。それらは社会でもよく起きることなので役に立つでしょう。11日は職業案内所が混雑していました。説明するスタッフも別の説明をしている様でした。12日はその点が改善されていたので良かったですね。
・役に立つものになったと思います。特に税の仕組みは子どもにとって衝撃的だった様です。初日の混み方で子どもが楽しめるか不安でした。でも、実際働き始めると楽しんでいました。また翌日の改善にビックリしました。運営の皆さんの本気度が伝わってきました。
・キッザニアのような営利目的の施設とは違い、大学生のお兄さんお姉さんとの交流も楽しかった。
・案内がわかりにくかった。子どもだけで来たときにわかりにくいと思う。
・わたがしが、予約していたのに結局出せないということになり、子どもががっかりしてしまっていた。
・いろいろと知っているスタッフと知らないスタッフの差が激しい。間違った回答をしてくる。
・市民登録→職業登録の流れを子どもが理解しておらず、直接仕事のブースへ行ってしまうということが発生した。
・並ぶ列の最後尾がわからず割り込みなどが発生していた。
・人が多く、ブースの人が回っていない。
・開会後職案で「大人は並ぶな」と何回もアナウンスされていたが小さい子どもに付き添っている大人もいる中で、大変聞き手の気持ちを考えていないアナウンスだと思った。迷子になったらどうするのか？
・会の途中で階段を「登り専用」に変えた場所があるが、途中で変えると分かりにくい。
・ルール説明の記載が少ない。学生の参加意識の差がすごかった。
・食堂が時間によって売る側が暇になってしまう点
・遊びのフロアの職業体験をしてもお客が来ないし店長も絵を掲げているだけで何の策もなく、時間が経ってしまい、もったいなく感じた。
・小１、年中には少し難しい課題を感じる。
・仕組みについての説明が初めて来た子どもにもっと分かり易ければ、親が口出しせずに子どもだけで良い体験ができると思う。
・仕事中の子ども達がお客さんみたいに遊んでいるのが不満。
・広くて場所が分からず大変でした。
・職業案内所が年々悪くなっているような気がします。運営側のやり易さが優先されていませんか？
・「名刺づくり」行くと担当学生さんは不在で隣のブースの「新聞」のところにいる高校生が突然呼ばれ任されていた。
・食堂で、ゴミの分別がなっていなかったり、参加者のマナーの悪さが目立った。
・本人か希望している仕事ができるように人数や予約方法を検討してほしい案内が不十分だと思った。目的の仕事ができず残念だった。
・昨年に比べて、色々な面で効率が下がったと思います。
・お仕事案内の長蛇の列。せっかくバーコード化されたのに。登録制により昨年よりも人数も制限しているのにあまりお仕事ができず残念。職案は大行列なのに食堂では学生が売っていて子どもは働いていませんでした。
・説明不足！案内不足！職案と会場のアクセス悪すぎ！スタッフの案内が曖昧。
・市民登録所がグダグダ、どういう流れで登録するのかちゃんとできていない。整理券を出すのであれば前もって用意すべき。当日手書きはあり得ない。
・バス停の入り口から入ったのですが、入り口に案内はありましたが、大学に入った後の案内が無かったので守衛さんに聞いてしまいました。
・スタッフの方が自分に仕事を把握せずお互いに聞き合いながらやっていた。
・12ユリーもらえるはずが4ユリーしか貰えず6ユリーの税を払って大変な思いをしました。担当者を払う人だけでなく確認する人もつけてあげると良いと思います。
・今年度は衛生管理がなってないと感じた。

大人アンケート 自由記述（改善点）

・学生から父母に言いにくいようなことは看板やポスターにして学内に貼り出しておくか、ポスターやミニたまゆりのサイトで事前に告知したらどうか。
・やりたい仕事が満員でできなかったので、仕事の数を増やしてほしい。
・わたあめやお絵かきせんべいなど、外でもできるようなものは食堂ではないところでやれば食堂の混雑が回避できるのではないか。
・ミニたまゆりに慣れないうちは、職業案内所で職業を案内されてから働く場所に行くのに時間がかかるので、始業時間を10分ではなくもっとゆとりをもって設定してほしい。
・職業案内所と、市役所・銀行・税務署はフロアを別にしたほうがいいと思う。
・漢字にはかならずふりがなをつける。
・インターネットで当日のパンフレットを見れるようにしてほしい。または、パンフレットを配ってほしい。
・特別プログラムに当選した人が12ユリーをもらえたりするのは、応募したのに落ちた人がかわいそうではないか。公平にしてほしい。
・市役所のバザーで、大人が必死で買い漁っているのはおかしい。バザーは、子どものみ入場可能にしてはどうか。
・飲食スペースを時間限定でもいいから増やすべき。
・案内図面は、大人向けではなく小さな子どもにもわかりやすいように、ふりがなをつけてシンプルに、イラストを多用したものを配布するべきである。
・学生スタッフが何か質問をされたときに、わからないことならハッキリとわからないと言い、調べてくること。
・豚汁の仕事はやけどが心配。高学年からの仕事にするべき
・並ぶ列の最後尾が毎回わからない。最後尾はわかりやすくしてほしい。
・職業案内所は職業のカテゴリーごとに教室を分けた方がいい
・大人ユリー売場を増やして点在させたほうがいい
・4号館にも市役所・職案があった方が良い。⇒仕事を得るのに時間がかかりすぎる。移動が大変。実際の市役所も分所がある。
・税務署（税金）の仕組みを詳しく教えた方が良い。
・朝一番の職業は事前登録にしては？⇒朝の混雑で午前中が終わってしまう
・周りに色々聞ける大学生の人が必要。
・職案で午前中だったためか列が長くなっていました。最後尾と横入り防止の担当者の配置があると良いと思います。
・学生ならではの発想の職業等あれば面白いと思いました。
・待っている時間が長すぎて、子どもだけで入場して大人は入れない方が、話もちゃんと聞き理解するかと思いました。
・職安から職場までの案内がもう少しほしい
・職場に最低でもスタッフ2人はいないと宣伝などに向かえない。
・申し込みの返答メールに当日の流れ等見れると良いですね。
・職安に30分も並んでわたがしをやろうと楽しみにしていたのに、職場に行って初めて機器の故障を知らされた。もっと早く職安に連絡し、募集を中止するようにするべき。
・大人ユリーの販売開始時間の認識が学生一人ひとりでズレていた。学生間の情報共有をもっとしっかりしてほしい。
・仕事の種類、求人のわりに子どもの参加人数が多すぎる気がします。
・ゲームの仕事で、ポスター？のお絵かきのみで、お客さんが来なくて、30分何もしませんでしたどうすればお客が来るかなど一緒に指導して考えてあげることはできたのではないか、担当の学生さんがただそばにいるだけで何も指導していなかった。
・今まで窓口に受付が3か所あったと思うのですがパソコン管理のためか1か所ずつになりこれが行列の1つの要因かと思います。パソコン管理するなら内容でブースを分けずに10人くらい受付でどの受付でもどの仕事でも対応するようにすれば良いのでは？ブース分けの意味は何かな？と思います。
・昨年は仕事の教室の後ろにたくさん保護者席があったので良かったのですが、今年は少しだけで足りなかった。ゲームコーナーにも保護者の椅子が欲しかった。
・特別プログラムの受付が混みすぎて間に合わない予約者は別案内にする。又、予約あり・なしと列を分けるなど改善を希望します。案内が少なく分かりにくい。
・情報発信（参加前の）がやや不十分。Webでは分からないことが多すぎた。（事前の予約が必要な仕事があるとか）
・仕事探しが混みすぎ。各職場近くに3ヵ所ぐらいに分けては？場所が分かりづらい。廊下等に案内図が欲しい。今、何が空いていて、何が混んでいるかアナウンスがあるとBest
・チラシである程度仕組みを説明しておいて欲しい。
・最初の職案が大変工夫されていて（モニターで残りがわかるetc…）良かったが、小さい子は、文字ばかりで職業がイメージできないので、写真や動画などを利用してほしい。
・遊びのコーナー等、働いてる子どもの区別があると分かりやすい（目印みたいなもの→リストバンドやバンダナみたいな簡単な物）
・子どもだけのイベントにしたいのなら、スタッフの数を増やし、スタッフ教育にも力を入れるべきだと思います。
・労働の対価としての報酬と税金というコンセプトは良いと思いますが、労働の内容がもう少し高度なものもあって良いと思います。銀行システム＆職案は2か所でも良いのでは
・新百合ヶ丘駅からの便が良くないですね。乗合バス等があると良いかと思います。
・大学の構内に入ってすぐの案内がない。市民登録の場所が、入ってすぐなのに分からない。踊り場や、階段のいたるところに主要の場所（銀行、職案や○号館など）案内がほしい
・仕事についてもう少し深く加わりたいと思います。座っているだけでほとんどスタッフがやっている場面があった。
・全ての仕事など、1つの建物だと分かりやすい。
・職業の予約システムがほしい。
・大人ユリーをバラで買えるようにしてほしい。
・後半になってやっとシステムが分かった。未就学児には難しい。低学年と高学年の理解度は全く違う。→対象者がわかる様にもっと内容を詰めるべき。各600名も募集となると1日のみの参加の人はやりたい仕事があってもせいぜい3個が限度。日にちの拡大（4日間）に増やすなどの工夫が必要。子ども主体、学生がサポートという役割ならば学生はもっと内容、企画含め詰めなおした方が良い。
・迷子の呼び出しについてですが、「○号館の○教室で○○が待っています」というだけではなく「～で待っています。場所がわからない場合はスタッフに声をかけてください」と一言ある方が子どもだけで行動している子に分かりやすいと思いました。
・仕事がまだできない未就園児がゆっくりできるスペースがあれば嬉しい。（仕事として保育士体験があればそのキッズスペースが役に立つかも。）
・市民カードの紐はビニール紐でない方が良いと思います。ビニール紐がばらけて他のものに引っかかりてんわやんわしておりました。

第１２回子どもが作る町ミニたまゆり２０１７実行委員会

教職員スタッフ24人　教職員代表　番匠一雅
学生スタッフ　合計 ２２６人　学生代表　渡邉紗菜
・ミニたまゆりコアスタッフ 96人 (3・4年生を除く)
（公共 24人・製作 8人・遊び 13人・食事 14人・イベント 24人・総務 １０人　物品　3人）
・ミニたまゆり学生ボランティア １３０人
（公共 26人　製作 36人　遊び 23人　食事 15人　イベント 20人　その他 10人）

学生コアスタッフ

委　員　長　：渡邉　紗菜

総　　務　：望月　陽加・山崎　日菜子・浅間　玲菜・荒木　智仁・小沼　聖歩・木村　ゆうか・酒井　弘樹・篠﨑　愛海

公　　共　：曽根　純実（グループ長)相沢　高弘・池田　葵・下川　優香・伊達　紅緒・三井　良太・一谷　忠史
大川　奈津美・置田　あすか・菊池　千晶・小杉　良樹・齊藤　夏海・自見　花奈・永島　翔太・仲嶋　裕希
林　美希・古江　叶・望月　紗希・森　彩花・山田　菜央・山本　幸乃・吉川　礼恵・渡邉　一喜

製　　作　：小島　海帆（グループ長）小川　端希・寺島　しほ・内藤　綾子・荒井　満里奈・岡本　さくら
佐々木　七海・佐藤　凛子

遊　　び　：仲亀　真季（グループ長）井川　直・浜田　優希・加藤　耕介・川上　貴幸・榊原　俊平・櫻井　玲菜
田中　翔大・田中　大貴・田渕　聖也・野倉　美咲・春木　俊偉・森住　彩加・森藤　義徳

食　　事　：北郷　かえで（グループ長）秋山　知夏・清水　麻希・有馬　功弥・加藤　万稀・久住　暉海・小森　和也
齋藤　有希・繁田　稜太・島川　奈々・鈴木　彩・鈴木　泰成・立木　ほのか・鶴巻　愛美

イベント　：大川　優美（グループ長）大石　すみれ・小田切　赳真・菅沼　賢人・樋口　裕也・松野　遥・村山　知美
泉野　亜美・門脇　夕夏・川久保　繁輝・岸　友里奈・桐生　果歩・佐藤　七海・齊藤　里佳子
清水　大空・鈴木　彩奈・関川　柊・奈良崎　収・野地　花夏・針生　聡子・藤代　晴子・堀内　蘭

物　　品　：秋元　沙月・吉良　友里・小林　柚葉

コンシェルジュ：稲葉　遼・内野　仁嗣・斉藤　彩菜・伊東　雄大・太田　裕也・徳永　愛里沙・櫻井　智紀・藤原　知美
渕上　拓磨・山岸　帆高

第１２回子どもが作る町ミニたまゆり２０１７報告書

制　　作：田園調布学園大学子どもが作る町ミニたまゆり実行委員会
編　　集：浅間　玲菜・荒木　智仁・小沼　聖歩・木村　ゆうか
酒井　弘樹・篠﨑　愛海
イラスト：moeko（http://moekonet.lix.jp）
デザイン：番匠　一雅
印　　刷：株式会社ダイトクコーポレーション
連　絡　先：田園調布学園大学地域交流センター　メール：c-center@dcu.ac.jp

第13回子どもが作る町ミニたまゆり2018は、2018年2月10日（土）・11日（日）の開催となります。
詳しくは、ミニたまゆりホームページ（http://minitama.jp/）をご覧ください。

協力団体一覧

ＨＩＢＩＫＩＰＩＡＮＯ	音楽演奏指導・オープニング・エンディングパフォーマンス
NPO法人　ソシオキュアアンドケアサポート	ビューティーサロン
かわさきエフエム	番組への出演、PR協力
シャープ株式会社	ロボホンの提供・説明会場・テレビ局
タウンニュース	取材協力
とうふ菜園玉川学園店	豆腐スイーツの販売
なでしこ同窓会	エコバザー
ビストロカプリシュー	子どもレストラン
ヨネッティー王禅寺	プール券の提供
株式会社　よみうりランド	ガラポン
一般財団法人　川崎新都心まちづくり財団	パネル展示
株式会社シグマ	フォトスタジオ
株式会社ジュピターテレコム	テレビ局、取材協力
橘リサイクルコミュニティーセンター	紙すき
原田管理商会	協賛金の提供
自衛隊　神奈川地方協力本部	車両の展示・子ども用制服・着ぐるみの提供
社会福祉法人　はぐるまの会	焼き芋・喫茶店
社会福祉法人　一廣会　金井原苑	人助けの仕事
社会福祉法人　緑成会	人助けの仕事
社会福祉法人こどもの国協会	かざぐるま作成
新百合ケ丘総合病院	病院の仕事体験
神奈川新聞	取材協力
神野　文子 氏（フリーアナウンサー）	テレビ局・アナウンサー指導
西生田中学校おやじボーイズ	市民登録ボランティア
川崎フロンターレ	着ぐるみ（ふろん太）の提供
川崎市	市長訪問・かわさきマイスターの派遣
川崎市議会	子ども市議会への協力
川崎市教育委員会	小学校への告知協力
川崎市動物愛護センター	動物愛護センターの仕事体験
昼川　捷太郎 氏（かわさきマイスター）	木のおもちゃ作り
田中　司好 氏（かわさきマイスター）	食品サンプル
日経クリエイト	食品の調理、学食の運営
麻生区社会福祉協議会	手話体験
麻生区役所	市長選挙への協力・着ぐるみの提供
麻生警察署	パトカー白バイの展示・着ぐるみの提供・警察犬パフォーマンス
麻生消防署・麻生消防団	消防車の展示・起震車体験・着ぐるみの提供
麻生総合高校	ボランティア派遣・声優体験・新聞社・名刺作成
麻生養護学校	物品の販売
木下　鈴奈 氏（声優）	声優体験
有限会社　TimberTech	協賛金の提供

高校生ミニたまゆりボランティア

神奈川県立麻生総合高等学校ミニたまゆりボランティアスタッフの報告

平成29年２月11日（土）・12日（日）に、生徒17名・職員８名が、田園調布学園大学の主催する「ミニたまゆり」にボランティアとして参加しました。

「ミニたまゆり」とは、子どもたちが大学内に作られたミニたまゆりの町で仕事を行い、給料をもらって税金を納め、稼いだお金で食事やゲームをすることで、社会や経済の仕組みを楽しみながら学んでいくというイベントです。

本校の生徒たちは「新聞社」「放送局」「名刺づくり」のボランティアとして、子どもたちと一緒に取材に行き、テレビ番組の制作や新聞の編集を行いました。

当日は大盛況で、本校の生徒たちは多くの子どもたちの対応で、大忙しでした。しかし、子どもたちに取材の仕方やまとめ方などを教え、子どもたちから「ありがとうございました。」という感謝の言葉をもらい、生徒も子ども達も笑顔で過ごした体験活動となりました。

生徒たちはみな充実した様子で、特に保育系の仕事を志望している生徒にとっては子どもとの会話を楽しみ、教えることの楽しさを実感するなどたいへん有意義な経験となりました。

かながわ子ども合衆国構想

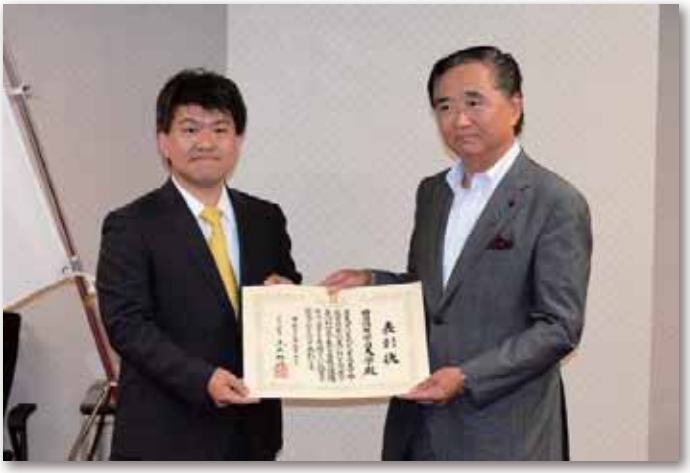
ミニたまゆりの活動が、神奈川県 「大学発・政策提案制度」に採択されました

今年で12回目となるミニたまゆりは、年々規模が大きくなってきており、現在では、約300人の学生スタッフと教員が、40以上の外部団体の協力を得て、70の店舗を企画しており、約2000人の来場者が様々な仕事を体験できるようになっています。また、事前に町づくりに興味がある子どもを集め、町のルール作りや市長選挙、紙幣のデザインなどを行う「子ども会議」において、自分たちの町を良くするために、地域の課題について考えるとともに、問題解決力を育成しています。

最近では、川崎市や麻生区が積極的に協力してくれるようになり、川崎市、麻生区の特色ある産業を体験できる店舗を用意し、地域の職業人から直接指導を受けることにより、自分たちが育った地域の特色ある産業を理解するとともに、郷土愛を醸成する工夫を行っています。

この様に、本学がミニたまゆりの活動に取り組む目的は、参加児童へ「職業感の育成」「社会の仕組みの理解」「問題解決力の育成」「郷土愛の醸成」を促す事であり、本活動の意義は大きいと考えています。

今回、ミニたまゆりの活動をより多くの子どもたちに体験してもらえるよう、神奈川県が主催する「大学発・政策提案制度」を利用して、“ミニたまゆりと同様な取り組みを、神奈川県全域に普及させる”ための提案を行い、神奈川県の政策として正式に採択されることになりました。



「大学発・政策提案制度」とは、神奈川県が専門的な知見や人材等を有する大学と一層連携強化を図ることにより、多様化・複雑化する県政の課題を解決することを目的として、平成21年度からスタートさせた制度であり、神奈川県内に所在する大学から県政に関わる政策提案を募集し、公開コンペ方式の審査により選ばれた提案について、大学と県が協働で事業を実施するという制度です。

今年度は、10大学から13の政策提案の応募があり、その中から、予備審査を通過した7大学が最終審査として、公開コンペに参加し、審査員の前で、提案内容についてプレゼンテーションを行いました。田園調布学園大学からは、子ども未来学科番匠准教授と社会福祉学科和専任講師が公開コンペに参加。公開コンペを経て採択されたのは、田園調布学園大学の「神奈川県子ども合衆国を実現するための制度構築」、東海大学の「ICTを活用した防災訓練・防災マップ作成による若年層への防災教育」、東京都市大学の「県内土木施設を紹介するWEBサイトの構築とSNSによる情報発信、およびこれを基盤とするインフラツーリズムの展開」の3提案。本学の政策提案は、本学で11年間続けてきた、ミニたまゆりのノウハウをマニュアル化するとともに、神奈川県に存在する5つのキッズタウンと連携し「かながわ子ども合衆国」を組織し、まだ、キッズタウンが開催されていない地域に新たなキッズタウンを開催する支援を行うという内容になります。

神奈川県庁で広かれた表彰式では、黒岩知事から表彰を授与されるとともに本活動を神奈川県内に広げるために、大学と県が協働で事業を実施する事を約束していただきました。

日本文化実践講座ミニフエ（ベトナム）

日本文化実践講座ミニフエは、2005年から開催されている、田園調布学園大学の番匠先生が発案した異文化学習プログラムです。本活動は、12年間にわたるミニたまゆりのノウハウを発展させ、外国人日本語学習者が、職業体験を通じて日本文化への理解を深めるための教育プログラムになっています。

ベトナム社会主義共和国フエ外国語大学日本語日本文化学部が、本プログラムの活動フィールドとなっており、約200人の学生スタッフが、日本文化を模した20の店舗を企画・運営します。ミニフエの活動は10月～3月までの半年間。店舗の企画・準備の他、日本式の接客方法や礼儀作法、ビジネスマナー、組織論を学ぶための講義やレポートが課せられ、ミニフエのプログラムを修了した学生は、実習５単位分の単位が取得できます。

その他にも、最優秀店舗を決定するコンテストも開催され、商品やサービスが日本文化を体現しているか、「おもてなし」を意識した接客ができているか、などの評価項目で採点し、順位を決めています。

2017年3月に開催された第3回ミニフエでは、おにぎり、コロッケ、せんべい、団子、たこ焼き、ラーメン、和菓子、日本人形、紙すき、食品サンプル、書道、浴衣、茶道、メイド喫茶などの店舗が出店され、コンテストでは食品サンプルが優勝となりました。

活動の詳細は、ミニフエホームページ（http://minihue.com/）をご覧ください。

第12回子どもがつくる町
ミニたまゆり2017

田園調布学園大学
〒215-8542 川崎市麻生区東百合丘3-4-1
TEL 044-966-2780
E-MAIL：c-center@dcu.ac.jp
http://minitama.jp/